

8) 簡便に使えるようになりました。「組勘データを見える化する経営管理ツール」

(研究成果名：JA端末への実装による組勘データを見える化する経営管理ツールの利便性向上)

道総研 十勝農業試験場 研究部 生産システムグループ

十勝農業協同組合連合会

1. 試験のねらい

経営規模が面積・頭数や販売金額の双方で大きくなるなか、経営管理の高度化に向けた経営面の支援を充実させる必要が高まっています。

これまで十勝農試は「組勘データを見える化する経営管理ツール」を開発・公開してきました。この度、十勝農業協同組合連合会との共同研究によって、「組勘データを見える化する経営管理ツール」をJAの営農相談により簡便に活用するため、JA関係部門の利用端末に実装に向けた経営管理ツールの改良とプログラム開発を行いました。

2. 試験の方法

実装に向け、十勝管内JAで以下を行いました。

- 1) 社会実装に向けた組勘見える化ツールの改良
 - (1) 「経営管理ツール」の利用実態調査による改善課点の特定
 - (2) 要望に対応した分析票テンプレートの作成
- 2) 組勘見える化ツールのシステム実装
 - (1) JAサーバからのデータ抽出、テンプレートへのデータ格納、印刷プログラム開発
 - (2) 利用性テストに基づく修正

3. 結果

- 1) 改良のもととなった「組勘データを見える化する経営管理ツール」は組勘上の資金の流れをグラフ化し、計画値等の基準値との相違点を鮮明にすることで問題点の把握を容易にします。Excelファイルで作成されており、利用者が道総研からツールを入手し、組勘コードを設定した上で、組勘取引の摘要別実績CSVデータや組勘科目別年計画値を手作業で入力する必要がありました(表1)。
- 2) 今回、①分析票に修正を加え、②サーバからデータを抽出するプログラム及び対応するテンプレートを開発し、③十勝管内JAの端末に経営管理ツールを実装しました。実装された経営管理ツール(以下、「組勘見える化ツール」)は、分析票

を作成する対象の組勘コード及び基準年次、月範囲を指定するだけで、組勘見える化グラフ及び収支計算書を一括で作成、印刷でき、Excelファイルによる保存も可能です。データ抽出及び印刷が自動化されており、全戸の一括処理も可能です。

3) 組勘見える化ツールは、サーバから「組勘摘要別実績」「組勘科目別年計画」「組勘摘要別年計画」データを抽出し、JAの利用端末にあるExcelで作成されたテンプレートにデータを格納し、組合員別の分析票(組勘見える化グラフ、収支計算書等)を出力します(図1)。このためプログラムとテンプレートはセットで機能します。

4) 分析票のテンプレートはExcelで作成されており任意の改良が可能ですが、標準テンプレートとして、①基準年の計画値と3カ年の実績値(基準年、前年及び前々年)を表示し、基準年だけでなく平常年との相違点を鮮明に示すことができます。また、②月範囲指定により、年計画に対する当年当月の進捗と前年、前々年の当月実績を比較することで期中の収入・支出の進捗から問題を把握しやすいようにし、③組勘の摘要別年計画を活用して農業所得(家族労働報酬)と資金不足時の資金調達の内訳も把握できるようにしました。

4. 活用上の留意事項

- 1) 組勘見える化ツールは、わかりやすい情報を簡易に提供することで、農業経営者に改善の必要性について、認識を強く促すものです。
- 2) 十勝管内JAに実装し、平成31年1月より本格的に運用を開始する予定です。
- 3) 本ツールは道総研と十勝農業協同組合連合会の共同著作物であるため、十勝管外JAでの利用に当たっては、両者の許諾のもと当該地区の電算環境に適合するプログラムの開発が必要です。
- 4) 組勘口座を経由しない取引は把握できないことに留意して活用してください。

表1 改良、実装した「組勘データを見える化する経営管理ツール」の概要

	組勘データを見える化する経営管理ツール (平成23年普及推進)	実装した組勘データを見える化する経営管理ツール
想定する利用場面	経営者自らがツール、データを入力して、ツールを利用する	JAの営農相談部門がツールを用いて、組合員の分析票を作成する
利用の流れ	①利用者が道総研からのexcelツールを入手 ②コード設定 ③組勘実績データを入力 ④利用者が個々のデータを手作業により入力 ⇒分析票作成	①JA営農相談部門が、端末のプログラムで対象者、年次を指定 ⇒分析票作成 ※多人数の組合員の一括処理が可能
入力 1) 用いるデータ	①実績値:組勘取引実績のCSVデータ(4桁小分類) ②基準値:組勘営農科目別年計画値(2桁大分類) (基準値は、過年の組勘科目別年実績値(2桁大分類)も可能)	①JAサーバにおける組勘営農摘要別実績値(4桁小分類) ②JAサーバにおける組勘営農科目別計画値(2桁大分類) ③JAサーバにおける組勘営農摘要別計画値(4桁小分類) ※一部ののみ
2) 入力作業	利用者自らの入力を想定。組合員1人ずつの作業。 ①組勘取引実績CSVデータをexcelシートへ貼り付け ②組勘営農科目別年計画値の手入力	JAの営農相談部門での作成を想定。一括処理。 ①JA端末のプログラムによって、データを自動抽出 ②組合員の一括処理が可能
出力 1) 比較対照	①当年実績値と当年計画値(基準値は過年の実績値も可能) ②営農科目(2桁大分類)での比較	①当年実績値、当年計画値、昨年・一昨年実績値 ②営農摘要(4桁小分類)を一部利用(労賃、資金借入・返済) ③月範囲実績を年計画と比較可能。期中管理に活用できる。
2) グラフの構成	①収入:農産、畜産、その他収入等の得られた収入の構成 ②支出:収入に対する支出と差引余剰 ③差引余剰:差引余剰に対する資金返済と可処分収支 ④運用:可処分収支に対する家計費、貯金共済等 ⑤資金算:最終的な資金余裕額	①収入:同様 ②支出:労賃は雇用労賃のみを対象とする。収入に対する農業所得を評価できる。 ③差引余剰:農業所得に対する資金返済額を短期、長期に分けて評価できる。 ④運用:左に加え、専従者給与を評価できる。 ⑤資金算:同様 ⑥資金調達:資金不足時の資金受入、借入を評価できる。

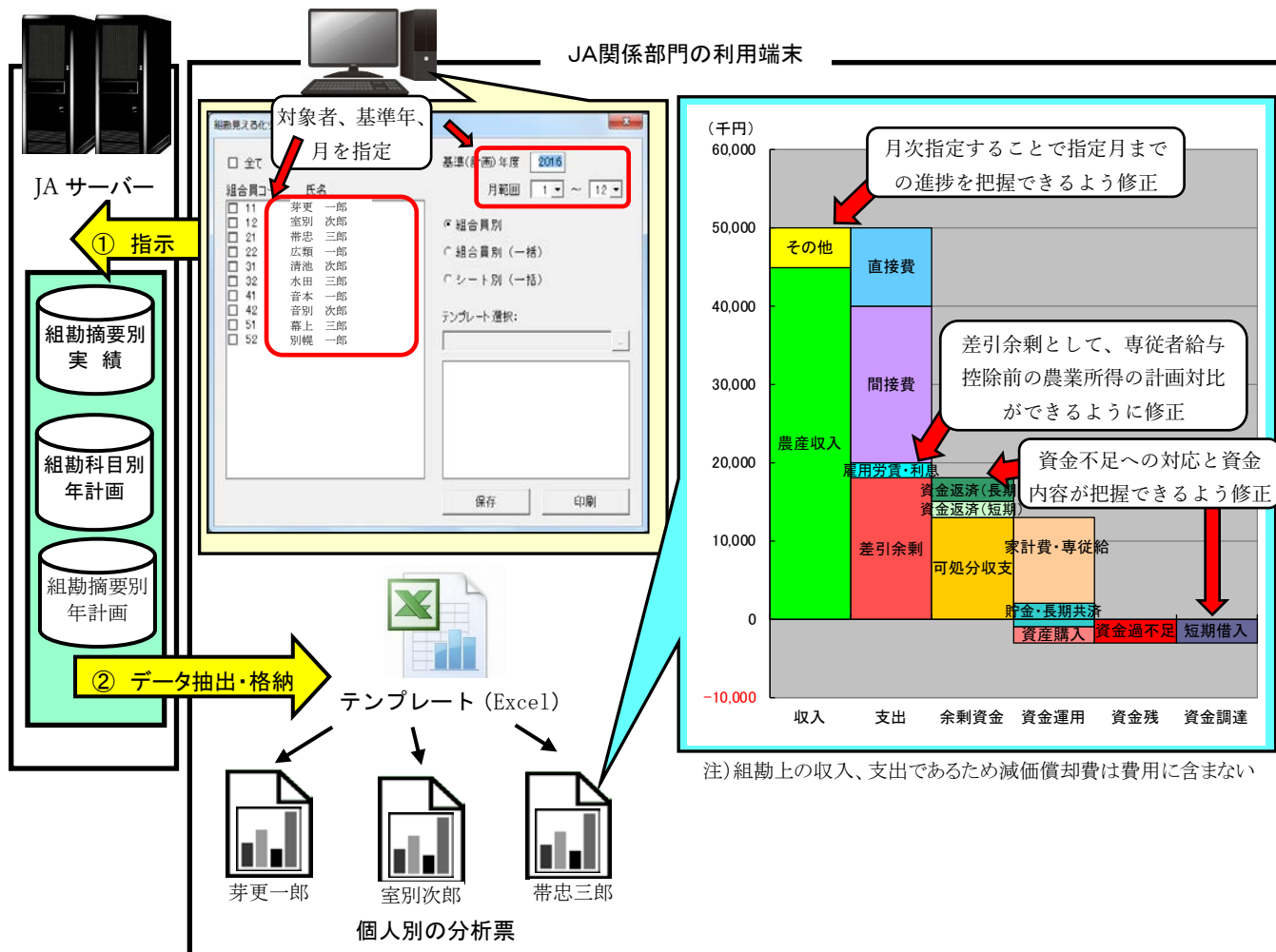


図1 実装された「組勘見える化ツール」のシステム全体イメージ